

みやけの風

第 136 号

平成 15 年(2003年) 8 月 9 日(土) 発行
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 発行責任者：上原 泰男
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階
 東京ボランティア・市民活動センター 気付
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646
 E-mail：tokyocenter@cmpo.org

児童・生徒の一時帰島に行ってきました。島にいた時は、夏は時間さえあれば連れてきていた錆が浜での1時間。海に入ってはいけないのですが、子供たちに「転んだ振りして入っちゃえ！着替えは持ってきたぞ。(本当は持って来てない・・・)」と喉まで出かかった声を飲み込んでのわずかな時間でした。炎天下の錆が浜。懐かしかったです。

みんなの声

青空の下で歌ってきました

なかなか夏になりきれない毎日でしたが、7月27日(日)の千葉県柏市は、かき氷を食べたくなるような日差しと暑さでした。そしてその空の青さは、三宅島を思い出させてくれました。

柏の金巻哲生さんのお声かけにより、柏市の市民祭り「柏まつり」に今年も三宅島合唱団『アカコッコ』の団員15名とピアノ(キーボード)演奏者1名が参加することとなりました。金巻さんは、市民祭りに於いて1年前より三宅島少年野球のために、かき氷・三宅島のグッズ(バッジ、三宅島をデザインしたTシャツ)などを地元野球少年たちと一緒に販売し、売上金から寄付してくださっている方です。

午後3時と4時の2回、かき氷を売るテントのそばで、浜辺の歌・野ばら・夏の思い出・はるかな友に・ふるさと・独唱(やしの実・さくら貝の唄)を歌いました。臨時に並べられたイスに1人2人と次々に柏まつりに来られたお客さんが、座って聞いて下さったり、ご年配のかたが、ハンカチで涙をふいてらっしゃるのを歌いながら見ているとこちらも思わず・・・。

これまでのように舞台上で歌うのは、それはそれで達成感があるのですが、今回は三宅島がデザインされたTシャツをみんなを着て、青空の下、とてもリラックスして気持ちよく歌えました。また、団員の1人による三宅島への想いをつづった詩の朗読は

島の情景を思わせてくれました。2回目の4時のときには、かき氷を売っていた青年が飛び入り参加、ドキドキしていたようですが終わったあとは、とてもさわやかな表情をしていました。

金巻さんをはじめ、スタッフのかたには、“感謝・感謝”。暑い中、重そうな機材をいくつも用意してくださり、本当にありがとうございました。

火山ガスのことを思うと気がめげますが、これからも元気に楽しくをモットーに歌っていこうと思います。

(三宅島合唱団『アカコッコ』 松岡 靖恵)

「夏休み親子体験教室

(ダイエー主催)」に参加して

8月1日、ダイエー(スーパー)が勤務されているお子さんを対象に、職場見学ツアーを企画、その中で三宅島観光協会が火山灰プリントのコースター作りで参加することになり、石井、稲葉、杉山、山本でお手伝いすることになった。

参加者は子供11名、大人6名の総勢17名。年齢は5才～71才までと幅が広い。自分で色を作り、型紙で色付けをする作業。30分間で2枚のコースターを作り上げなければならない。出来上がった作品は、元気があり、どれも素晴らしく、手作りの世界で1つしかない作品となった。短い時間の中で子供たちの集中力、慎重さ、大胆さを強く感じ、私の日常を考えさせられた時

間でもあった。

三宅島でよく食べられていた食品を食べながら、津村さんの三宅島の話聞くコーナーも企画され、盛り沢山の1日となった。くさやを食べた子供の気分が悪くなったり、「死にそうー！！」と叫んだり、最後にすごい体験をしてしまった。この子が大人になって、酒を飲むようになった時、今日のこの体験を思い出すことがあるだろうか。遠い未来を思って、時間満了となった。

(大田区 山本 登美子)

海のシンフォニーファミリーコンサート

NHKの海のシンフォニーファミリーコンサートに島民200名が招かれました。今年で13回目を迎え「海の日」に寄せたファミリーコンサートのようなものでした。毎年大変な好評で、今年も3万人の応募者があり、その内の3千人しか招かれないほどの好評さです。多くの方が来場されていましたが、招かれた島民と声をかけ合うことも出来ました。プログラムは第一部と、第二部に構成されていました。

出演 指揮者 円光寺 雅彦さん
 管楽器 新日本フィルハーモニー交響楽団
 ピアノ 熊本 マリさん
 ソプラノ 高橋 薫子(のぶこ)さん

テノール 福井 敬さん
 合唱 東京放送児童合唱団
 司会 NHKアナウンサー 竹内陶子さん

<第一部>

「アルルの女」第二組曲。続いて行進曲「威風堂々」第四番のこの演奏には曲の流れの素晴らしさと、心浮き立つほどの感激を覚えました。

<第二部>

行進曲「鎖をあげて」に続いて、高橋薫子(のぶこ)さんが「サンタ・ルチア」を、福井敬さんが「オ・ソレ・ミオ」を歌い、続いてお二人で歌劇「椿姫」から乾杯の歌等を聞き、さらに海の歌メドレーで児童合唱団70名位が振りを付けながら可愛らしく、海・浜千鳥・浦島太郎・ソーラン節まで数々歌って楽しませてくれました。

最後に、チャイコフスキーのイタリア奇想曲で華を飾り、また何とも言えぬ素晴らしい演奏で聞きホレ、心癒されました。そしてフィナーレにバンド演奏にのって舞台と観客全員で「我は海の子」を声高らかに歌って、余韻の残る思いでNHKを後にしました。

関係者の皆様に心から厚く御礼申し上げます。たい気持ちです。(葛飾区 五十嵐 文子)

耳 寄 り
 情 報

そば打ち体験に三宅島の方をご招待

『そば打ちを体験してもらおう』と稲城を中心に活動している同好会“打香保(ダカボ)”から『三宅島の方に自分で打ったそばを味わってもらおう』とお申し出がありました。各日ごとに、4人1グループで5組(約20名)の方をご招待。ご希望の方は、開催日の1週間前までに、三宅島島民連絡会までお申し込みください。できれば、4人1組でお申し込みいただければと思いますが、4人集まらなければ、三宅島島民連絡会事務局で組み合わせを調整しますので、お気軽にお問合せください。

日 時：8月16日(土)・24日(日)・30日(土)
 いづれも10:00集合 10:30～14:00 昼食つきです
 (ご自分で打ったそばを、お楽しみいただきます)
 場 所：須黒食品物流センター2Fキッチンスタジオ
 (JR南武線矢野口駅より徒歩5分)
 お申し込み：三宅島島民連絡会事務局
 TEL&FAX：03-3269-1243